



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月4日

上場会社名 ゼリア新薬工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4559 URL <http://www.zeria.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 伊部 幸顕

問合せ先責任者 (役職名) 取締役広報部長

(氏名) 森山 茂

TEL 03-3661-1039

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	37,759	△0.6	2,745	94.5	2,709	88.4	1,732	130.2
22年3月期第3四半期	37,968	6.2	1,411	30.0	1,437	35.2	752	△13.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	41.89	—
22年3月期第3四半期	18.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	75,765	28,976	38.1	697.82
22年3月期	70,971	27,995	39.4	676.77

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 28,859百万円 22年3月期 27,995百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
23年3月期	—	9.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,000	0.5	3,000	89.4	2,900	97.6	1,850	84.7	44.73

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期3Q	48,290,173株	22年3月期	48,290,173株
② 期末自己株式数	23年3月期3Q	6,933,741株	22年3月期	6,924,148株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期3Q	41,362,652株	22年3月期3Q	41,372,627株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、3ページの「1.当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
4. 補足情報	12
(1) 生産、受注及び販売の状況	12
(2) 新薬パイプラインの状況	14

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期までのわが国経済は、企業業績に一部改善の兆しが見られるものの、厳しい雇用環境や長期化する円高、デフレの進行等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

医療用医薬品業界におきましては、昨年4月に薬価改定が行われるとともに、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用促進などの医療費抑制策が引き続き推進されており、またOTC医薬品（一般用医薬品）市場におきましても、消費低迷により市場競争が激化するなど、ともに厳しい環境下で推移いたしました。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間の売上高は377億59百万円（前年同四半期比0.6%減）となりました。一方、利益につきましては、営業利益27億45百万円（前年同四半期比94.5%増）、経常利益27億9百万円（前年同四半期比88.4%増）、四半期純利益17億32百万円（前年同四半期比130.2%増）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の海外売上高比率は、11.8%（前年同四半期0.1%）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

①医療用医薬品事業

主力製品である潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール」は、国内においては営業力を傾注することにより早期の市場浸透に努めてまいりました。また海外においては、Tillotts Pharma AGの自販体制の推進などの営業力強化により市場拡大に努めてまいりました。その結果、「アサコール」は引き続き順調に売上を拡大いたしました。しかしながら、亜鉛含有胃潰瘍治療剤「プロマック」、H₂受容体拮抗剤「アシノン」などの製品は、昨年4月の薬価改定の影響を受けて苦戦いたしました。また、商品の一部が仕入先企業と販売先企業の合併に伴い、33億33百万円の減収となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は222億21百万円（前年同四半期比1.9%減）となりました。

②コンシューマーヘルスケア事業

主力製品である「コンドロイチン群」は、テレビCM及びそれに連動した店頭販促等の効果により、更なる市場浸透を図り、引き続き順調に売上を拡大いたしました。また滋養強壮剤「ヘパリーゼ群」においても、テレビCMや交通広告、キャンペーン等の効果もあり製品認知度がさらに向上し、大幅に売上を拡大いたしました。一方で、植物性便秘薬「ウィズワン群」等の一部製品は市場競争の激化の影響を受けて苦戦いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は153億68百万円（前年同四半期比1.3%増）となりました。

③その他

保険代理業・不動産賃貸収入等により、当部門の売上高は1億69百万円（前年同四半期比12.1%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

（資産、負債及び純資産の状況について）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は757億65百万円となり、前連結会計年度末対比47億93百万円の増加となりました。その内訳は流動資産が263億85百万円で、前連結会計年度末対比2億23百万円の増加、固定資産が493億79百万円で、前連結会計年度末対比45億70百万円の増加となっております。流動資産の増減の主なものは、現金及び預金の増加14億16百万円、受取手形及び売掛金の減少2億21百万円、商品及び製品等のたな卸資産の減少1億7百万円であります。また、固定資産の増減の主なものは、有形固定資産の増加8億33百万円、後述のBiofac Esbjerg A/Sの連結開始に伴うのれんの発生等による無形固定資産の増加26億88百万円、投資その他の資産の増加10億47百万円であります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は467億88百万円となり、前連結会計年度末対比38億12百万円の増加となりました。その内訳は流動負債が298億55百万円で、前連結会計年度末対比60億37百万円の減少、固定負債が169億33百万円で、前連結会計年度末対比98億49百万円の増加となっております。流動負債の増減の主なものは、支払手形及び買掛金の減少12億42百万円、短期借入金の減少41億60百万円であります。また、固定負債の増減の主なものは、長期借入金の増加100億96百万円であります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は289億76百万円となり、前連結会計年度末対比9億81百万円の増加と

なりました。これは四半期純利益の計上17億32百万円、前期末及び当中間期の配当の実施7億3百万円等によるものであります。この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は前連結会計年度末と比べ1.3%低下し、38.1%となりました。

なお、Biofac Esbjerg A/Sの連結にあたりましては、同社の第1四半期末である平成22年9月30日をみなし取得日としており、また同社の決算日を6月30日から12月31日に変更し、連結決算日（3月31日）との差異が3ヶ月を超えないため、当第3四半期連結会計期間においては、同社のみなし取得日の貸借対照表のみを連結しております。

（キャッシュ・フローについて）

当第3四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、期首残高対比14億16百万円増加し、48億59百万円となりました。これは、投資活動によるキャッシュ・フローが67億37百万円のマイナスであったものの、営業活動によるキャッシュ・フローが41億59百万円、財務活動によるキャッシュ・フローが40億25百万円のプラスであったためであります。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間は41億59百万円の資金の増加となりました。これは税金等調整前四半期純利益の計上26億64百万円、減価償却費の計上17億12百万円、売上債権の減少2億4百万円、仕入債務の減少12億67百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間は67億37百万円の資金の減少となりました。これは有形固定資産の取得による支出12億77百万円、無形固定資産の取得による支出2億28百万円、投資有価証券の取得による支出21億17百万円、新規連結子会社株式の取得による支出33億15百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間は40億25百万円の資金の増加となりました。これは短期借入金の減少54億24百万円、長期借入れによる収入128億72百万円、長期借入金の返済による支出16億16百万円、社債の償還による支出11億円、配当金の支払6億96百万円等によるものであります。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

売上高につきましては、概ね計画通りに進捗していることから、前回発表いたしました通期連結業績予想からの変更はありません。

一方、利益面につきましては、引き続きTillotts Pharma AGの業績が順調に推移していることと合わせ、経費の節減等に努めた結果、前回発表した通期連結業績予想から微増を見込んでおります。

通期連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	51,000	2,900	2,800	1,800	43.52
今回修正予想（B）	51,000	3,000	2,900	1,850	44.73
増減額（B-A）	—	100	100	50	—
増減率（%）	—	3.4	3.6	2.8	—
（ご参考）前期実績 （平成22年3月期）	50,745	1,584	1,467	1,001	24.21

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

ア. 簡便な会計処理

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して一般債権に係る貸倒見積高を算定しております。

②たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、当第2四半期連結会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

③有形固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している有形固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④繰延税金資産の回収可能性の判断

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

イ. 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

ア. 会計処理基準に関する事項の変更

①「資産除去債務に関する会計基準」の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益がそれぞれ4百万円減少し、税金等調整前四半期純利益が68百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は71百万円であります。

②「企業結合に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）、「「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正」（企業会計基準第23号 平成20年12月26日）、「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成20年12月26日）、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）を適用しております。

イ.表示方法の変更

①四半期連結損益計算書

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

②四半期連結キャッシュ・フロー計算書

前第3四半期連結累計期間において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しておりました未払金の増減額(前第3四半期連結累計期間232百万円)は、当第3四半期連結累計期間において金額の重要性が増したため、「未払金の増減額」として独立掲記しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,991,442	3,574,449
受取手形及び売掛金	12,933,722	13,155,446
商品及び製品	3,021,248	3,552,591
仕掛品	526,356	409,792
原材料及び貯蔵品	2,554,623	2,246,915
その他	2,387,164	3,263,161
貸倒引当金	△28,861	△40,378
流動資産合計	26,385,697	26,161,978
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	6,611,838	6,281,481
土地	11,566,037	11,039,227
その他（純額）	3,356,476	3,380,079
有形固定資産合計	21,534,352	20,700,787
無形固定資産		
のれん	13,025,593	10,211,136
その他	1,290,229	1,415,869
無形固定資産合計	14,315,823	11,627,005
投資その他の資産		
投資有価証券	8,881,127	7,161,741
その他	4,712,143	5,394,975
貸倒引当金	△63,899	△75,111
投資その他の資産合計	13,529,371	12,481,605
固定資産合計	49,379,547	44,809,398
資産合計	75,765,244	70,971,376
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,887,115	5,129,930
短期借入金	20,545,898	24,706,028
1年内償還予定の社債	200,000	1,200,000
未払法人税等	634,491	750,104
賞与引当金	526,433	924,694
返品調整引当金	197,305	169,984
売上割戻引当金	242,799	227,721
その他	3,621,198	2,784,069
流動負債合計	29,855,240	35,892,532
固定負債		
社債	1,300,000	1,400,000

(単位:千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
長期借入金	14,864,644	4,768,459
退職給付引当金	174,937	173,305
資産除去債務	71,605	—
その他	521,823	741,855
固定負債合計	16,933,011	7,083,620
負債合計	46,788,252	42,976,152
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,593,398	6,593,398
資本剰余金	5,414,745	5,414,745
利益剰余金	25,547,060	24,517,465
自己株式	△7,299,892	△7,290,512
株主資本合計	30,255,311	29,235,096
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,569,511	△1,287,411
繰延ヘッジ損益	343	5,960
為替換算調整勘定	173,346	41,578
評価・換算差額等合計	△1,395,821	△1,239,872
少数株主持分	117,502	—
純資産合計	28,976,992	27,995,224
負債純資産合計	75,765,244	70,971,376

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	37,968,751	37,759,207
売上原価	17,288,211	14,184,048
売上総利益	20,680,539	23,575,159
返品調整引当金戻入額	186,086	169,984
返品調整引当金繰入額	190,753	197,305
差引売上総利益	20,675,872	23,547,838
販売費及び一般管理費	19,264,529	20,802,727
営業利益	1,411,342	2,745,110
営業外収益		
受取利息	1,460	2,952
受取配当金	182,065	226,853
出資金運用益	—	113,076
その他	102,669	126,792
営業外収益合計	286,195	469,675
営業外費用		
支払利息	195,415	215,561
シンジケートローン手数料	—	98,500
為替差損	—	149,258
その他	64,526	42,366
営業外費用合計	259,942	505,687
経常利益	1,437,595	2,709,099
特別利益		
固定資産売却益	—	17,669
投資有価証券売却益	38,682	—
受取補償金	30,987	—
受取和解金	40,000	—
貸倒引当金戻入額	3,586	6,980
特別利益合計	113,256	24,649
特別損失		
固定資産除却損	8,336	5,042
投資有価証券評価損	169,167	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	63,834
買収調査費用	84,788	—
特別損失合計	262,292	68,877
税金等調整前四半期純利益	1,288,559	2,664,871
法人税等	535,871	932,091
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,732,779
四半期純利益	752,687	1,732,779

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,288,559	2,664,871
減価償却費	1,722,381	1,712,532
のれん償却額	—	387,764
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△465,691	△394,792
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	15,138	1,632
受取利息及び受取配当金	△183,526	△229,806
支払利息	195,415	215,561
投資有価証券売却損益 (△は益)	△38,682	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△592,969	204,487
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△24,201	324,557
仕入債務の増減額 (△は減少)	55,365	△1,267,854
前渡金の増減額 (△は増加)	1,028,732	305,261
前払年金費用の増減額 (△は増加)	225,166	189,195
未払金の増減額 (△は減少)	—	468,087
その他	530,163	600,993
小計	3,755,851	5,182,493
利息及び配当金の受取額	181,458	229,999
利息の支払額	△195,152	△216,057
法人税等の支払額	△516,107	△1,037,216
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,226,050	4,159,219
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,362,075	△1,277,461
無形固定資産の取得による支出	△142,428	△228,188
投資有価証券の取得による支出	△1,041,802	△2,117,651
投資有価証券の売却及び償還による収入	344,240	173,671
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△11,680,658	△3,315,451
その他	△34,429	27,434
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,917,153	△6,737,646
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	13,355,345	△5,424,801
長期借入れによる収入	658,000	12,872,624
長期借入金の返済による支出	△2,224,341	△1,616,501
社債の償還による支出	△100,000	△1,100,000
自己株式の取得による支出	△10,206	△9,379
配当金の支払額	△644,217	△696,253
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,034,580	4,025,688
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△30,273
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	343,477	1,416,987
現金及び現金同等物の期首残高	2,670,679	3,442,345
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,014,156	4,859,332

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

(事業の種類別セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める医薬品事業の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

(所在地別セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める本邦の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

(海外売上高)

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、その記載を省略しております。

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、医療用医薬品及びOTC医薬品を中心に事業活動を展開していることから、報告セグメントを「医療用医薬品事業」と「コンシューマーヘルスケア事業」にしております。

「医療用医薬品事業」では、医療用医薬品の研究、開発、製造、販売を行っております。

「コンシューマーヘルスケア事業」では、セルフメディケーションに係るOTC医薬品、健康食品、医薬部外品及び化粧品の製造、仕入、販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医療用 医薬品事業	コンシュー マーヘルス ケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	22,221,241	15,368,225	37,589,467	169,740	37,759,207	—	37,759,207
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	166	166	233,427	233,594	△233,594	—
計	22,221,241	15,368,391	37,589,633	403,168	37,992,801	△233,594	37,759,207
セグメント利益	4,171,749	1,888,331	6,060,080	98,665	6,158,745	△3,413,634	2,745,110

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業及び不動産業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△3,413,634千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

①生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医療用医薬品事業	11,879,476	3.8
コンシューマーヘルスケア事業	13,848,427	△4.6
報告セグメント計	25,727,903	△0.9
その他	—	—
合計	25,727,903	△0.9

(注) 1. 金額は正味販売価格換算で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

②受注実績

当社グループは販売計画並びに生産計画に基づいて生産を行っており、受注生産は行っておりません。

③商品仕入実績

当第3四半期連結累計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医療用医薬品事業	2,817,009	△59.2
コンシューマーヘルスケア事業	1,226,137	△2.9
報告セグメント計	4,043,147	△50.5
その他	—	—
合計	4,043,147	△50.5

(注) 1. 金額は実際仕入額で表示しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

④販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医療用医薬品事業	22,221,241	△1.9
コンシューマーヘルスケア事業	15,368,225	1.3
報告セグメント計	37,589,467	△0.6
その他	169,740	12.1
合計	37,759,207	△0.6

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 金額は消費税等抜きで表示しております。

(2) 新薬パイプラインの状況

I. 国内開発状況

1) 消化器系分野

(平成23年2月4日現在)

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	備考
承認	Z-209	自社	大腸内視鏡前腸管洗浄	改良製剤	導入 ビジクリア改良製剤
申請中	Z-338/ アコチアミド	共同開発 (アステラス製薬)	機能的ディスペプシア	上部消化管運動改善 作用	自社オリジナル
フェーズⅢ	Z-103/ ポラブレジンク	自社	味覚障害	亜鉛補充	導入 プロマック効能追加
フェーズⅠ/Ⅱ	Z-208/ タミバロテン	共同開発 (テムリック)	肝細胞癌	レチノイン酸RAR α 受容体作動作用	導入
フェーズⅡ	Z-206/ メサラジン	共同開発 (協和発酵キリン)	クローン病	pH依存型放出調整製剤	自社グループ オリジナル アサコール効能追加

2) その他の分野

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	備考
フェーズⅢ 追加試験	Z-100	自社	子宮頸癌	免疫調節作用	自社オリジナル アンサー効能追加
フェーズⅢ	Z-521	自社	低リン血症性くる病	リン酸補充	自社オリジナル 未承認薬 開発支援対象
フェーズⅡ	Z-207	自社	アレルギー性鼻炎	粘膜組織凝固・収縮 作用 エタノール・ ステロイド配合剤	導入

II. 海外開発状況

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	備考
承認 (韓国)	Z-103/ ポラブレジンク	導出 (SK Chemicals)	胃炎・胃潰瘍	胃粘膜保護作用	導入 プロマック
フェーズⅢ (中国)	Z-206/ メサラジン	共同開発 (Tillotts Pharma)	潰瘍性大腸炎	pH依存型放出調整製剤	自社グループ オリジナル アサコール
フェーズⅢ準備中 (欧州)	Z-338/ アコチアミド	自社	機能的ディスペプシア	上部消化管運動改善 作用	自社オリジナル
フェーズⅡ終了 (北米)	Z-338/ アコチアミド	自社	機能的ディスペプシア	上部消化管運動改善 作用	自社オリジナル
フェーズⅡ準備中 (欧州)	Z-360	自社	膵臓癌	ガストリンCCK ₂ 受容体拮抗作用	自社オリジナル